

## 第77回日本医学図書館協会総会分科会

幹事会

日時：2006年5月26日（金）14：00～16：00  
 場所：ウィルあいち 3階 第4会議室  
 テーマ：医学情報の一般への提供—国立ライフサイエンス情報センター構想を視野に入れて—  
 司会：国立保健医療科学院研究情報センター  
 磯野 威氏

冒頭、司会の磯野氏より国立ライフサイエンス情報センター（仮称）の設立に向けた現段階での報告があり、その後グループディスカッションを設け、グループごとに医学情報への一般提供に関して話し合い、その発表と全体討議が行われた。

### I. 国立ライフサイエンス情報センター（仮称）

- 国民一般の健康増進に寄与するために、ライフサイエンスにかかわる情報の網羅的収集およびネットワーク機能の樹立を目的とする。
- 関連団体との協力体制で可能な事業を展開していく。
- サイト“からだところの情報センター”を公開する。
- 国によるセンターの設置を最終目標とする。

### II. グループディスカッション・全体討議

グループディスカッションでは下記の5項目が与えられ、自由に討論が行われた。その中で全体討議になった項目を記す。

1. あなたの職場では「一般への医学情報提供」

をどのように行っていますか。今後どのように行っていくですか。

2. あなたは一般の市民が必要とする「医学情報」はどのようなものだと考えますか。
3. あなたは患者／家族の求める「医学情報」はどのようなものだと思いますか。
4. あなたは医療スタッフの評価に耐えうる医学図書館員の患者向け情報サービスとはどんな要件を満たさなければならないと思いますか。
5. あなたは「医学情報」の一般への提供を行う根拠はどこにあると思いますか。

- なぜ医療情報を提供するのか。  
→患者が医療を選択するため。
- 医療情報とはなにか、資料の選択をどのようにしたらいいのか。  
→闘病記は1冊でいろいろな情報を知ることができる。患者会の資料、診療ガイドラインなど。各科の医師に選択してもらった癒しのための一般書も必要である。
- 患者からの質問にどう対応したらいいのか。  
→相談があった場合はMSWを紹介する。ただ聞いてほしいだけの患者もいる。
- 提供方法はどうしたらいいのか。  
→国立大学は一般に開放しているが、医学情報に関する問い合わせは少ない。  
国立大学附属病院と県立図書館、市立図書館との連携。

（文責：若杉亜矢／松下記念病院）